

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2001-171695  
(P2001-171695A)

(43)公開日 平成13年6月26日(2001.6.26)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 33/25  
33/08

識別記号

F I

B 6 5 D 33/25  
33/08

ターム(参考)

A 3 E 0 6 4

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平11-353192

(22)出願日 平成11年12月13日(1999. 12. 13)

(71)出願人 596163987

株式会社田中化工社

東京都大田区大森東 5 丁目29番14号

(72)発明者 田中 紘一

東京都大田区大森東 5 丁目29番14号

(74)代理人 100083792

弁理士 羽村 行弘

Fターム(参考) 3E064 AA13 AB03 BA21 BC13 FA01

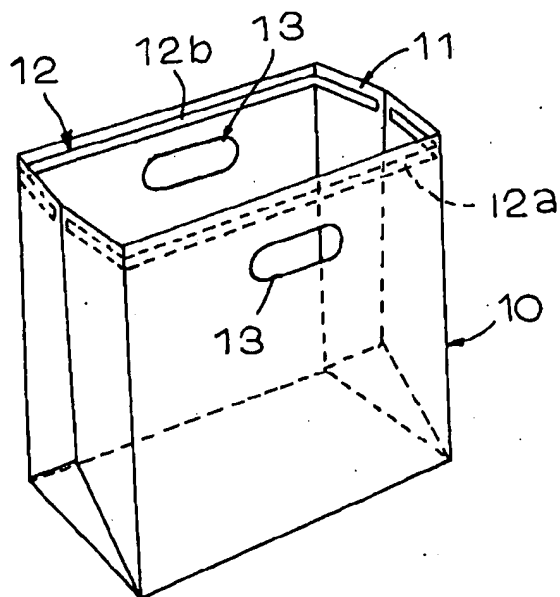
HD02 HE02 HJ01 HN12

(54)【発明の名称】 プラスチック製袋

(57)【要約】

【課題】 袋の開口部を簡単に綴じることが可能にしつつ湿気を効率よく袋外に逃がすことのできるプラスチック袋を提供する。

【解決手段】 開口部11に再開閉機能を有するチャック12を備えたプラスチック製袋であって、前記チャック12より下側に手掛穴13を設けたことを特徴とし、前記開口部を綴じたときでも手掛穴13がそのまま湿気排出口として利用できるように構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 開口部に再開閉機能を有するチャックを備えたプラスチック製袋であって、前記チャックより下側に手掛穴を設けたことを特徴とするプラスチック製袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は、商品等の内容物を収納して店頭で陳列するとき、或いは持ち帰るときに収納した商品等が飛び出さないように開口部を簡易に封止できるようにしたプラスチック製袋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種のプラスチック製袋として、実用新案登録第3058837号公報のものが提案されていた。これは、図5(a)の如く、袋50の開口部51に、剥離膜52を仮着した自着部53を設けてなり、図5(b)の如く、商品などの内容物54を収納した後、前記剥離膜52を剥いで自着部53を露出させて開口部51を突き合わせることで簡単に綴じられるように構成されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記提案の袋50は、開口部51に設けた手掛穴55が前記自着部53より下側であったため、開口部51を綴じると袋内が密封され、これに収容した内容物54が湿気を含むものであるときは、湿気の逃げ場がないか、極めて狭く、湿気が袋内に籠もってしまい、カビなどを発生させ易かった。

【0004】また、前記袋50が、陳列中に内容物を外部より見せるために透明プラスチック基材で作製した場合において、自着部53で開口部51を綴じてしまうと、前記湿気にて基材が直ぐに曇ってしまうという問題もあった。この問題を解消するために、透明プラスチック基材として防曇フィルムを用いるか、該防曇フィルムを内面に貼り合わせたものを用いることも考えられていたが、袋内に籠もった湿気を除去することができない以上、充分な解決策にはならなかった。

【0005】本発明は、上記の問題点を一挙に解消するためのもので、袋の開口部を、より簡単に綴じることが可能にしつつ湿気を効率よく袋外に逃がすことのできるプラスチック袋を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、本発明は、開口部に再開閉機能を有するチャックを備えたプラスチック製袋であって、前記チャックより下側に手掛穴を設けたことを特徴とし、前記開口部を綴じたときでも手掛穴がそのまま湿気排出口として利用できるように構成したものである。

【0007】

【発明の実施の態様】以下、本発明の構成を図1～図4に示す実施の態様に基づいて説明する。本願袋10は、プラスチック製からなり、該袋10の開口部11には再開閉機能を有するチャック12を備えている。該チャック12の下側には手掛穴13が設けられている。従って、前記チャック12を咬合させて開口部11を塞いだときにおいても、図2の如く、手掛穴13が内容物14から発散する湿気Sの排出口としての機能（外気の流通孔となる）を有することとなる。

【0008】前記チャック12は、図3の如く、プラスチック材の素材の弾性を利用して咬合できる、凹条筋12aを有するテープ12a'と、凸条筋12bを有するテープ12b'とからなり、これらテープ12a'及び12b'を介して本願袋10の開口部11の対向面に高周波接着又は接着剤接着その他の手段により接着されている。なお、予め、前記凹条筋や凸条筋を設けたプラスチックフィルムを利用して本願袋10を得てもよいことは勿論である。

【0009】本願袋10であって、図1に示す形体の場合には、その開口部11を合掌状に突き合わせ、前記凹条筋12aと凸条筋12bとの一部を重ね、その重ね部分を親指と人指し指で開口部11の外側から強く押圧すると、その摘んだ部分で凹条筋12aと凸条筋12bとは互いに咬合するから、その摘み位置を筋方向に順次移動させるか、摘んだ状態で筋方向にしごいて行くことにより開口部11は全域にわたって簡易に封緘させることができる。

【0010】また、開放させるときは、開口部11を両手指で握み、咬合解除方向に若干強い力を加えると、凹条筋12aと凸条筋12bとは素材の弾性により変形して力の加わった一部の咬合が解除されることとなり、その後は僅かな力で全域を簡易に開放させることができるようになる。

【0011】前記本願袋10が、図4(a)の如く、開口部11の一方が、他方より延長され、その延長片を折り返して封筒状に被せる形式のものであるときは、被せた状態で対向するそれぞれの面に、凹条筋12aと、凸条筋12bとを設けることとなる。この場合においても、図4(b)の如く、綴じ位置より下側に設けた手掛穴13が内容物14から発散する湿気Sの排出口としての機能を果たすことは勿論である。

【0012】前記チャック12の下側に設けた手掛穴13は、図の例では、楕円状になっているが、角を円弧にした長方形やその他であっても良い。また、図4(a)の如く、手掛穴13の上縁13aと下縁13bとを帯状部13cで連結し、内容物の重さに耐え得るようにすることもある。この場合は、本願袋10の素材として、薄手で安価なものが利用できる点で有利である。また、図示していないが、重い内容物を入れる袋を予め想定し、手掛穴13を形成する部位またはその周辺に補強テープ

や補強フィルムを貼り合わせるようにすることもある。

【0013】次に、本願袋10の作用について説明する。まず、本願袋10の開口部11を大きく開いて商品などの内容物14を収納する。次いで、チャック12を所定の方法にて咬合させて開口部11を綴じる。

【0014】かくして、内容物14が収納され、開口部11が綴じられた本願袋10は、前記手掛穴13が開口しているため、たとえ、内容物が椎茸その他湿気を多く含む商品であっても、該手掛穴13を通して湿気Sが逃げるため、袋内に湿気を籠もらせることがなく、カビなどを発生させる心配は殆どない。

【0015】また、本願袋10を透明プラスチック基材で作製しても、商品陳列中に湿気により基材が曇って内容物が外部より見えなくなるような虞もない。従って、透明プラスチック基材として防曇フィルム又は防曇フィルムを内面に貼ったプラスチック基材を使用すれば、より良い状態を保てることができるものである。

【0016】なお、上記本願袋10は、立体袋を例にして説明したが、扁平袋であっても、その他の袋であってもよいことは勿論である。

【0017】

【発明の効果】以上の如く、本発明は、開口部に再開閉機能を有するチャックを備えたプラスチック製袋であって、前記チャックより下側に手掛穴を設けたことを特徴としているから、前記チャックを開放させた状態で商品の充填が簡易にでき、商品充填後、手指で押さえることにより簡易に咬合により開口部を綴じることができ、商品を店頭に陳列する準備作業が簡単であり、陳列中に袋が倒れても商品等が飛び出すおそれがない。

【0018】しかも、開口部を綴じた後も前記手掛穴が湿気排出口として機能するから、袋内に湿気を籠もらせることがなく、内容物にカビなどを発生させることがないばかりでなく、湿気により透明基材を曇らせることもないなど各種の優れた効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願袋（第1例）の開口部を開放した状態の斜視図である。

【図2】本願袋（第1例）の開口部を綴じた状態を示す断面図である。

【図3】再開閉機能を有するチャックの斜視図である。

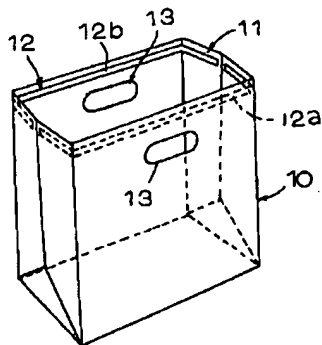
【図4】（a）は本願袋（第2例）の開口部を開放した状態の斜視図、（b）は同開口部を綴じた状態を示す斜視図である。

【図5】従来の自立袋で、（a）は開口部を開放した状態を示す斜視図、（b）は開口部を綴じた状態を示す断面図である。

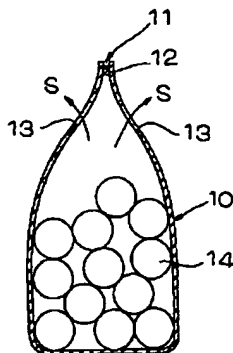
【符号の説明】

- 10 本願袋
- 11 開口部
- 12 チャック
- 13 手掛穴
- 14 商品等の内容物
- 51 開口部
- 52 剥離膜
- 53 自着部
- 54 商品などの内容物
- 55 手掛穴
- S 湿気

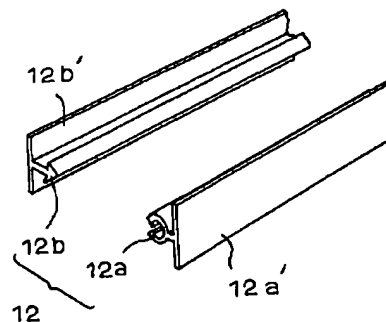
【図1】



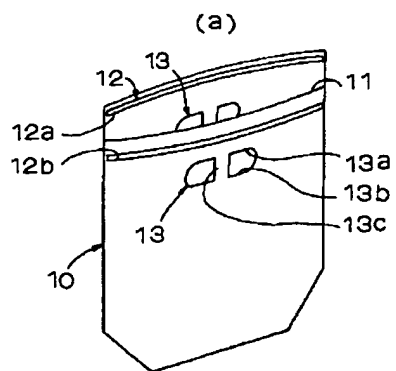
【図2】



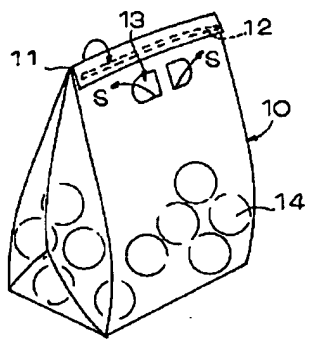
【図3】



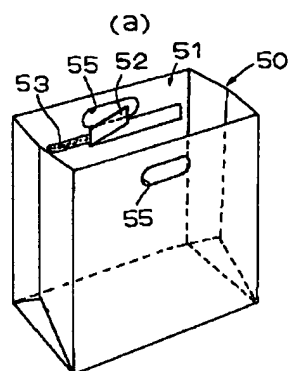
【図4】



(b)



【図5】



(b)

